

＜世界母乳週間 世界母乳の日＞ 2024年8月24日(土)、25日(日) 金沢市・金沢歌劇座

「第32回母乳育児シンポジウム」

思いをつなぐ、未来をつなぐ母乳育児一能登を応援、金沢で語ろう

主催：一般社団法人日本母乳の会

後援：UNICEF 東京事務所 子ども家庭庁 日本産科婦人科学会 日本小児科学会 日本小児科医会 日本新生児成育医学会
日本周産期・新生児医学会 日本助産師会 日本看護協会 石川県産婦人科医会 石川県小児科医会 石川県看護協会
石川県助産師会 石川県 金沢市 (申請中含む)

実行委員長 畑崎 喜芳 (小・富山県リハビリテーション病院こども支援センター)
副実行委員長 西澤 勝恵 (助・石川県立中央病院)
黒岩 征洋 (産・石川県立中央病院)

今回、シンポジウムのテーマを「思いをつなぐ、未来をつなぐ母乳育児一能登を応援、金沢で語ろう」と掲げました。今年1月の能登大地震の痛手からまだ立ち上がれない状況ではありますが、つらい震災の経験から母乳育児の大切さ、意義を発信していくこともできるのではないかと考えた上でのテーマです。3つのシンポジウムを計画しました。まず、「災害と母乳育児について考える」です。震災が起きた際にさまざまな立場の方々がどう動かれたか、その経験を話していただきます。周産期リエゾンの医師の活動、避難所での母子支援の状況、行政からの支援状況などです。また、石川・富山両県の分娩施設に、地震が起きた時の施設の状況、お母さんたちの様子についてアンケート調査を行いました。それらの経験談や調査結果から、普段の母乳育児の取り組みこそが防災の原点であるとの結論に至りました。まさに「どんなときでも母子同室が母子を守る」です。

2つ目のシンポジウムは、「父親の母乳育児支援」を取り上げました。父親の育児休業が進んでいく中で、「父親の育児参加＝ミルク育児」という風潮を何とか変えたいとの思いからこのテーマを選びました。まず、一橋大学経済研究所の白井恵美子先生に「父親のサポートがカギを握るおっぱいの経済学」という内容で基調講演を賜ります。その後、母乳育児を支えたお父さんの体験談や父親への母乳育児教育を積極的に行っている施設の取り組みを話していただき、さらに授乳中の母親の母乳中断はここからだにどう影響するのかという考察なども提示して、本来あるべき父親の母乳育児支援の姿に迫っていきたいと思っています。

3つ目のシンポジウムは「SNS時代の母乳育児 ー母親たちに本当の情報を届けるためにー」です。このシンポジウムでは母乳育児に否定的な SNS 情報に振り回されているお母さんへどのように対するか、を検討していきます。最初に九州医療センター小児科の佐藤和男先生による「SNS 情報の母乳育児、支援者はどうする？」という内容の基調講演があります。それを踏まえてネット上にあふれている母乳育児情報にはどんなものがあるかを取り上げ、その中から必要な情報を選びをどうやって助言していけるかをシンポジスト、参加者一体となって考えたいと思っています。

特別講演は、「母乳育児に関してエコチル調査から見てきたこと」という内容でエコチル調査富山ユニットセンターからご講演を賜ります。「母乳育児が産後うつを減らす」「母子同室と早期授乳が生後6か月までの完全母乳率を上げる」といったお話です。母乳育児の大切さを示すわが国発のエビデンスが少ない中で、この講演は母乳育児を推進する私たちにとって心強い後押しをしてくれるものです。ぜひ、多くの皆さまの現地参加をお願い申し上げます。

日本専門医機構：小児科領域講習小児科専門医1単位、産婦人科領域講習産婦人科専門医1単位、日本産科婦人科学会5点。
日本産婦人科医会研修参加証(シール)申請中。
日本助産評価機構のアドバンス助産師更新「選択研修」日本助産師会産後ケア実務助産師研修に該当

第32回母乳育児シンポジウムプログラム予定（プログラムは変更となることもあります）

2023年8月24日(土)		2023年8月25日(日)	
9:15~10:00	開会セレモニー BFH・BFNICU 認定式	9:00~ 9:30	一般演題
10:00~11:10	一般演題	9:30~10:20	特別講演「父親のサポートがカギを握るおっぱいの経済学」
11:10~12:10	特別講演「エコチル調査から見てきたこと」	10:20~12:10	シンポジウム「母乳育児と父親の育児休業を考えよう」
12:10~13:10	昼食	12:15~13:15	昼食
13:10~13:20	乳房・乳頭ケアビデオプレゼンテーション	13:15~15:30	シンポジウム「SNS 時代の母乳育児-母親たちに本当の情報を届けるために」
13:20~15:10	シンポジウム 災害と母乳育児 その1		
15:10~15:20	休憩	15:30~15:40	閉会
15:20~17:20	シンポジウム 災害と母乳育児 その2		
17:20~17:45	ポスター		
18:00~19:30	懇親会		

<タイムテーブル>

8月24日(土)

総合司会 炭谷 宗義(産) 富山県立中央病院

森下 美樹(助) 石川県立中央病院

9:15~10:00 開会セレモニー

開会 挨拶: 第32回母乳育児シンポジウム実行委員長 畑崎 喜芳

代表理事: 日本母乳の会 吉野 和男

挨拶: 石川県(予定) 金沢市(予定)

メッセージ: ユニセフ東京事務所所長(予定)

子ども家庭庁母子保健課課長(予定)

● BFNICU(Baby Friendly NICU) 認定各施設からの発表

10:00~11:10 一般演題(7題)

司会 寛永 淳子(助) 石川県立中央病院

月岡 ひろみ(助) あわの産婦人科

11:10~12:10 特別講演

「母乳育児に関してエコチル調査から見てきたこと」

司会: 畑崎 喜芳(小) 富山県リハビリテーション病院こども支援センター

・エコチル調査とは 土田 暁子 富山大学学術研究部医学系 公衆衛生学・助教

・母乳育児が産後「うつ」を減らす 嶋尾 萌子 富山市こども健康課

・母子同室と早期授乳が生後6か月までの完全母乳率を上げる

稲野 仁美 富山大学医学薬学教育部 博士後期課程看護学専攻 母子看護学

<12:10~13:10 昼食>

13:10~13:20 妊娠中からの乳頭ケアDVDプレゼンテーション

13:20~17:20 特別シンポジウム

「災害と母乳育児について考える」

能登半島大地震を経験して、いつでも、どこでも起こりえる災害での対策について討論する。

その1 能登半島被災地と母乳育児・母子支援（13:20~15:10）

司会：岩村 友恵（助） 金沢大学附属病院 MFICU

上田 智子（小） 松南病院

1) 災害時小児周産期リエゾンから

三谷 裕介（小） 金沢大学医学部小児科

2) 避難所の支援の現状

吉田みち代（助） 石川県助産師会

3) 行政の立場から

巽 綾乃（保） 石川県少子化対策課

4) 東日本大震災からまなぶ

坂総合病院宮城県/塩竈市

まとめ：避難所の母子支援の現状からみえてきたもの

岩村 友恵（助） 金沢大学附属病院 MFICU

<15:10~15:20 休憩>

その2 毎日の母乳育児の取り組みこそが防災の原点（15:20~17:20）

司会：桑間 直志（産） 富山赤十字病院

西澤 勝恵（助） 石川県立中央病院

1) 石川、富山県の分娩施設・そのときどうしたか アンケート調査からみる

松井 弘美（助） 富山県立大学看護学部 米田 昌代（助） 石川県立看護大学

2) どんなときでも母子同室が母子を守る

・なぜ、母子同室か

林 時伸（小） 北海道療育園/旭川市

・開院当初から母子同室を始めて

瀬川 裕史（産） ワイズレディースクリニック/幸手市

3) 妊娠中からの継続的な支援が重要-乳首の手入れ、母乳育児を支えるために

絹田 結香（助） 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

17:20~17:45 ポスターセッション:

18:00~19:30 懇親会 21世紀美術館 フュージョン

8月25日（日）9:00~15:30

総合司会 猪又 智実（小） 富山大学医学部附属病院

山岸 （助） 富山県立中央病院

9:00~ 9:30 一般演題

司会 吉本 英生（産） 済生会高岡病院

高本 一枝（助） 恵寿総合病院

9:30~10:20

「父親のサポートがカギを握るおっぱいの経済学」

講師： 臼井 恵美子 一橋大学 経済学研究所教授

司会： 二谷 武（小） 富山県立中央病院

10:20~12:10 シンポジウム2

「母乳育児と父親の育児休業を考えよう」

昨年に引き続き父親の育児について。父親の育児とミルク育児という風潮を変え、父親の育児について考えます

司会：寺西 穂波（産）黒部市民病院

- 1) 父親への効果的な母乳育児支援の検討 胡内 沙耶（助） 京都第一赤十字病院/京都市
- 2) 母乳育児を支えたパートナーの体験 田村 賢太郎 医師/富山大学周産母子センター
里見 聡一郎 教員/金沢市
- 3) 父親への母乳育児教育に積極的に取り組んで 山縣 威日（産）サンクリニック/岡山市
- 4) 授乳中の母親の母乳中断はこころと体にどのように影響するか
父親のミルク育児を母親の体からみると 黒岩 征洋（産）石川県立中央病院
- 5) 母乳権-赤ちゃん視点から父親の育児を考える 永山 善久（小） 新潟市民病院 長岡療育園

<12:10~13:10 昼食・休憩>

13:10~15:30 シンポジウム3

「SNS時代の母乳育児-母親たちに本当の情報を届けるために」

SNSは今の世界には不可欠の存在になりました。自由に発信できるという性質上、ありとあらゆる情報が飛び交っています。それらの情報に振り回されているお母さん・そして医療支援者へ、どのように対処していくか皆さんと一緒に考えます。

司会：渡邊 峰子（助） 松南病院

工藤 淳子（看） 石川県立中央病院

1) 基調：「SNS情報の母乳育児、支援者はどのように考えたらよいか」

SNS特徴、受ける母親の心理など解説、メディアリテラシーなどを解説していただきます

佐藤 和夫（小） 国立病院機構九州医療センター ときつ医院 NPO子どもとメディア

<討論>

- 2) ネット上にあふれている間違った母乳育児情報はどんなものがありますか
- 3) あなたはどのように答えていますか 実行委員がお答えします。
金沢実行委員会メンバーが答えを話し合っ、情報を提供します。

15:30~15:40 挨拶

閉会挨拶： 第32回母乳育児シンポジウム副実行委員長

